

# 所報 あきた

所報あきた 134号

令和5年1月31日発行

発行所 曹洞宗秋田県宗務所

発行責任者 袴田俊英

〒010-0812 秋田市泉三嶽根15-18

TEL (018)868-6871

FAX (018)868-6872

http://soto-akita.com

info@soto-akita.com

題字 能代市倫勝寺 山田晃一



新年 明けまして

おめでとうございます

山内御一同様

お健やかに 新年を

お迎えることと存じます

この一年

ご指導 ご鞭撻

よろしくお願い致します

宗務所長 月宗寺住職 袴田俊英

副所長 清松寺住職 佐藤徳祐

教化主事 西来院住職 田中裕憲

庶務主事 松庵寺住職 安孫子賢太

梅花主事 長泉寺住職 中村卓道

人権擁護推進事 本宮寺住職 佐藤善廣

書記 金浦寺副住 佐々木光惇

書記 瑞光寺副住 高橋潤一

新所長 九教区 月宗寺住職  
 袴田 俊英 師 (前副所長)



秋田県宗務所所長当選証書交付

退任 書記 伊藤 涼平 師



退任 所長 齋藤 昭道 師

三教区 瑞光寺 副住職  
 高橋 潤一 師



○新任 宗務所書記

十四教区 金浦寺 副住職  
 佐々木 光惇 師



○新任 禅センター書記



# 抱負

曹洞宗秋田県宗務所 所長 袴田俊英

新年明けましておめでとうござ  
います。

昨年12月11日より、宗務所長と  
して宗務行政の末端を担うこと  
になりました。また、秋田県宗務所  
は2年間当番県として東北管区  
の事務局を担当することとなりま  
した。管内寺院の皆様には旧に倍す  
るご支援とご助力をお願い申し上  
げます。

この度の宗務所内役職員の任命  
にあたりましては、管区事務を鑑  
み、これまでの慣例を破る形とな  
りましたが、所員をご推薦いただ  
く有道・總和両会派の諸老師様、  
また議長をはじめ所会議員老師に  
ご理解をいただき、昨年12月9日  
の臨時所会において承認され、新  
しい体制で執務が始まっておりま  
す。敬称を省略してご紹介します。  
副所長に清松寺・佐藤徳祐、教化  
主事・田中裕憲、梅花主事・中村  
卓道、人権擁護推進主事・佐藤善  
廣の三師は留任、庶務主事に松庵  
寺・安孫子賢太、そして新たに禅  
センター書記に金浦寺副住・佐々

木光惇、宗務所書記に瑞光寺副住・  
高橋潤一を迎えました。私の我儘  
を聞いて頂いた役員と関係各位  
に改めて御礼申し上げます。

新しい宗務所体制が整った昨年  
末から、宗務庁及び管区の会議が  
始まっております。特に本年は管  
区毎に大本山總持寺開山太祖登山  
紹瑾禪師七百年大遠忌予修法要が  
行われる年に当たり、東北管区は  
6月21日秋田市キヤッスルホテル  
に於て、永平寺貫首・南澤道人猥  
下ご親修のもと厳修されることと  
なりました。管内寺院様には様々  
な形でご協力を依頼することにな  
ると思いますが、よろしくお願い  
申し上げます。

当面のことに追われながら就任  
からこれまでの期間を過ごしてま  
いりましたが、宗務所各事業は  
しっかりとした骨組みを作ってま  
いりたいと考えております。人口  
減少は秋田県の大きな問題であ  
り、長引くコロナ禍で葬儀の簡素  
化はより一層深刻化しています。  
これにより寺院経営は大きな転換

点を迎えています。宗務所も同様  
であります。今後の変化を予測し  
ながら、宗務所運営に当たっては  
①経費の削減を常に念頭に置き事  
業に当たること。②研修事業にお  
いてはこれからの寺院の運営に資  
する研修を企画すること。この2  
点を常に念頭に置きながら事業に  
当たりたいと存じます。

比較的一カ寺当たりの檀家数が  
多く、後継者問題も少ないといわ  
れている秋田県においても、兼務  
寺院が増えてまいりました。後継  
者不足は秋田県においても大きな  
課題となります。葬祭という大き  
な基盤が揺らいできた今日、寺院  
の社会的な存在意義はどこにある  
のかを、私も僧侶自身が真剣に  
考えなければならぬ時が来まし  
た。人々に必要とされる寺院でな  
ければ、後継者問題の解決の糸口  
も見えてこないと思量します。

大きな転換点の渦中の4年間、  
宗務所をお預かりすることになり  
ました。不安の中での船出ではあ  
りますが、有能な役員と共に精  
進してまいりますので、宜しくご  
指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

末筆ながら、管内寺院皆様のご  
多幸と益々の山門繁栄を祈念申し  
上げます。



## 年頭のご挨拶

宗議會議員 國 安 大 智

改歳にあたり、謹んで県内ご寺院皆様様の更なるご多幸と山内皆様のご隆昌とを心から祈念申し上げます。昨年はご承知の通り任期満了に伴う、宗議會議員選挙、宗務所長選挙が行われました。宗議會議員選挙は、總和会深川典雄議員、有道会は私國安が各会の推薦を頂き、無投票当選で再任されました。ここに改めて衷心より感謝申し上げます。因みに全国全ての選挙区も無投票という結果でありました。深川議員は、六期目、私は二期目で、これまたご承知のように、今期は有道会の首班で永平寺系第七区服部秀生議員が満場一致で会長、更に今期の宗務総長の任に就かれ、新たに内局を発足しスタート致しました。詳しい人事は宗報等でご覧の通りであります。さてこの度の内局人事において、なんと言いまして、深川議員が教化部長にご就任されましたことは、わが秋田県にとりましても、昨年ご遷化されました、

國安格典元議員以来のことで、誠にめでたく、誉れで有り、秋田県、全国曹洞宗のために何卒任期を全うされ、これまでの議員経験を存分に生かして頂き、切にご活躍を祈念申し上げる次第であります。因みに、全国總和会会長は、お隣山形の三吉由之議員に、更に伝道部長には、同じ選挙区青森の倉内泰雄議員がなられ、同じ東北でとても力強く感じております。私のわずか一期、四年の経験上での私見を申し上げさせて頂きますが、有道会三十六人、總和会三十六人、特に近年はそれぞれ色々な意味で違う選挙区からの代表者達の議会ですので、極端に言えば七十二通りの考え方があり、それを踏襲して、なるべくベストに近いベターな結論に導き出す事は、並大抵では有りません。ただ唯一思うことは、いわゆる一昔、前と違って有道、總和関係なく、現場の危機感を強く共有し、同じ方向性の考え方の議員さん達、勿

論全国のご寺院様達も増えたことは事実だと思えます。改めて深川議員にはお身体お大切に宗門行政の中核で思う存分活躍して頂きたいと思えます。

さてこの度の服部内局のテーマは「人々の声に心耳を澄まし、社会と共に歩む」であります。現在の管長様大本山總持寺石附周行禪師様も大本山永平寺南澤道人禪師様も共に社会の問題と深く向き合うことの重要性をお示しであります。そこを踏まえたテーマは勿論のこと、具体的には、服部総長は前内局でコロナ禍の影響もあり財政部長職を異例の四年間勤められました。現在の宗門の財政について、また檀信徒会館について、宗門の機構改革について等かなり突っ込んだ提言を今から発信されております。正に内局全議員一丸となつての四年間になるであろうと期待しております。その中で、皆様宗門変わったな。と思われるような宗政を目指して、深川議員と共に私も微力ながら邁進する覚悟であります。皆様更なる忌憚のないご意見をお願い申し上げます。令和五年初めのご挨拶とさせていただきます。

合掌



# 年頭所感

——議員の古古米が新米部長となって——

宗議會議員 深川典雄

令和五年の年頭に当たり、謹んで新春の慶詞を申し上げ、県内洞門老宗師並びに寺族各位の萬福多幸、寺門のご隆昌と安寧を心からご祈念申し上げます次第です。

先ず始めに、昨年、任期満了による宗議會議員総選挙に当たり、浅学非才の身を顧みず六度立候補いたしましたところ、管内有権者老宗師の格別なるご法援を賜り、無競争当選という栄を賜りましたことに對し、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

さて、本年はいよいよ大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌予修法要の盛儀が大禪師猊下のご来臨を仰ぎ勤修できますことは法孫の一人として、また、担当部長として無上の喜びとするところではあります。

就任当初より、両大本山との連絡を密にし、昨年十二月末に両大本山禪師猊下に御親化を頂くために拝請に伺った次第です。

さらに、紫雲臺猊下には本年五月末に予定されております、北アメリカに於いて大遠忌予修法要中に厳修されます、国際布教百周年記念慶讃法要の御親化も併せてお願いして参ったところであります。

当東北管区に置きましたは、管区長の当番県として昨年十二月に就任された袴田俊英宗務所長の采配にて六月二十一日に予修法要が不老閣猊下の勤修を仰ぎ開催される運びと相成っております。

ご承知の通り、教化部は、企画研修課・布教課・国際課と多岐にわたる要素からなる部署です。

よって、他部署との協調性を堅持しながら、そして協力を仰ぎながら何事においても取り組んでいかなければならない部署との認識を強くしているところであります。

特に、教化施策は、将来に涉り宗門の教学に通ずるものでなくてはならないものと思料しているところであります。

さらに、宗門は長い歴史と伝統の中で、時には出家教団として上求菩提、個々の修行に励み、または教化宗団として下化衆生への接点を求め、布教伝道と時代に即応した教化を続けてまいりました。

特に、昭和四十年代においては信仰運動の一環として、家庭仏法の確立を願い、明るい家庭づくりを目指して「三尊仏奉祀運動」を提唱し、信仰のよりどころ、生活のよりどころとなる具体的な信仰運動を数多く展開し、その中でも昭和五十六年に提唱され、三十五年の期限を区切って展開された「総授戒運動」は、多くの賛同を得たものと思料いたすものであります。

授戒会は、今さら申し上げるまでもなく、仏弟子になるといふ厳肅な戒会であり、これにおいて信が決定し、宗門檀信徒の新たな人生への出発点となるのであり、この点を考えれば、この授戒会こそ在家信仰の根幹に据えるべき行持であり、宗門が存続する限りこれを継承護持していかなければならない大切な儀式です。

当然ながら、本宗における教化の枢要を担うこの戒会に、今日的な価値を見出し、いかねばならぬと考えているところであります。

次に宗門は、一九九一（平成三年）から「人権・平和・環境」のスローガンを定め、さまざまな活動に取り組んでまいりました。これらの活動は四摂法を根底となすものです。

現在の私たちから未来に向かって、誰ひとり取り残さない、持続可能な社会の実現に向けて、基本的人権の尊重、世界平和の確立、環境の保全とあわせて、一人ひとりが果たすべき重要な役割の一つが、SDGsに取り組むこととしてこの活動を進めております。

今後においては、もっと身近に感じられるSDGsの取り組みを主軸に取り組んでまいりたいと存じます。

所報紙面をお借りし、本職の思いの一端を述べ、一日も早いコロナウイルス感染症の終息を願いつつ擲筆させて頂きます。

# 五庵山抄



この紙面は皆様の思感を掲載するフリーペー  
ジです

## 第六教区の皆さまの声

### 「八十歳の壁」

春光寺住職 荻津 秀 廣

ユーチューブで偶然「八十歳の壁」という本の解説を見、そのような考え方もありかなと思いました。

当山でも月事斉でお檀家様にうかがった折、高齢者がもてなしてくれません。お天気、時事で気になった話、他愛もない話、時には難しくない佛法等をしながらお茶をいただきます。

今は「人生百年時代」。国、県、皆さんも健康寿命を延ばしたい（介護期間を短く、ピンピンコロリ）と考えています。平均寿命と健康寿命その差、男：約9年、女：約12年、

この間病気やケガ、認知症等で周りの介護が必要になります。本の結論としては老いを受け入れ、楽観的に生きようということになります。

「老化の壁」を超える方法として

- 一、三つの我慢をやめよう  
食べたい物を食べ、酒、タバコ  
塩分、糖分等気にしない。（自虐的？）ただし、暴飲暴食はダメ。興味あるものは続け、薬は必要最小限にとどめる。
- 二、昔との引き算で考えない  
若いころ、出来たのができないのは当然。比べない。
- 三、楽天主義を貫く  
ストレスを抱えない。

これから親の介護を迎える方、まもなく老後を迎える方の参考になるのではと思います。うまく伝えきれない所が多々あり、興味ある方は「八十歳の壁」で検索して下さい。

私は遺教経の一部を読んでいるように思いました。遺教経や修証義には人の生き方に参考になるもっと多くの文が入っていると思います。それらを解りやすくお檀家様や周りの方々に話せたら、一日一日が【感謝と幸せ】、亡くなる時は【悔いの無い幸せな人生だった】と思えるのではないかと考えこの頃です。

最後に「楽しいから笑うのではない

く、声を出して笑つから楽しくなる」皆さん笑う機会を多く作りましよう。 合掌

## 雑感

善福寺住職 戎谷周平

一年の世相を表す「今年の漢字」は『戦』だそう。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻など戦争を意識した年であったことやサッカーワールドカップでの日本代表の活躍をはじめスポーツの熱戦が心に強く印象に残った年になったからだろう。

この二ニュースを目にした時、太田久紀著「宿香界」(中山書房仏書林)の一節が思い浮かんだ。

世の中には、四種類の人々がある。一つは、闇から闇にさ迷う人である。二つは、闇より光におもむく人である。三つは、光より闇に向かう人である。四つは、光より光に進む人である。

この言葉は『雑阿含経(ぞうあこんぎょう)』という古い経典にあるお釈迦さまのおことばだそう。

闇とは、沈みこんでいく心、何事も暗く考えていく心、何事も悪く悪く受け取っていく心。光とは、何事

も善意にとらえていく心、何事も明るく明るく受け取っていく心。

お釈迦さまはこの四種類の人々がどの人生を選ぶかは、一人ひとりの気持ちにゆだねているというような内容の話である。

ウクライナの人々はロシアとの戦争が続く中で闇より闇だろうか、少しは光が見えているだろうか。ワールドカップで世界の強豪と戦い、ベスト8の夢は叶わなかった日本代表の監督はじめ選手たちはどういう心境なのだろうか。

この二ニュースを見ながら、そんな思いを馳せている。そして、人々の心が光に向かうような話題が多くなれることを願うばかりです。

## テレビについて熱く語ってみた件

黄龍寺住職 菊地大樹

娘達はほとんどテレビを視ない。スマホの方が良いらしい。我が家だけではなく、今の若い子達のテレビ離れが進んでいるそう。師はテレビが大好きだった。寝落ちしているから邪魔だろうと思いついてテレビを消すと「観ていたのに」と小言を言われた。涙を流しながら「小公女セーラ」を観て、「私の先生だ」と呟いてい

たこともあった。

私も師の影響かテレビをよく視る。知識の9割はテレビからと言っても過言ではない。七時半からBS放送で連続テレビ小説「連続」。「舞い上がれ」では夢を追う娘の応援方法を教えてくれている。何より連続テレビ小説は檀家さんとの会話に困ったときに天気や農作業の話題の次に切り札になる。火曜日は「ガスレーザーと学ぶ」。芸人ガスレーザーさんが毎回テーマを変えて研究者から様々な話を聴く。難しいテーマでも何故か分かったように錯覚させてくれるところがすごい。金曜日は「人志松本の酒のツマミになる話」。先々の時代から「法話一分お斎二時間」の寺として檀家さんと接してきた。

今でもお斎の場で先代から様々な話を聴いて面白かったと言ってくる方がいる。私も酒のツマミになる法話が出来る様にならなければと思っている。土曜日は「開運!なんでも鑑定団」。個人の価値観が値段によって揺らぐ様は面白い。日曜朝は「ボクらの時代」。下積み時代の苦労話や仕事をやる上でのプロ意識、ポリシーを聴くと素晴らしいと感じる。昼は「プレバト」。世の中にはこんなに沢山才能を持った方々がいるものだと驚く。

ここで私は如何に暇でオタク生活を謳歌しているかを主張したいわけではない。僧侶は様々な年齢、性別、職業、国籍の方と話をする機会がある。多様性の真つ只中にある我々は多様性を含んだテレビという日常から情報を収集する必要があると思う。以上テレビについて熱く語ってみました。テレビのせいで今週も月曜から夜ふかしだな。

※当コーナーの掲載順は原稿到着順です。



# 事業報告(宗務所だより)

9月30日 仏教講座  
野外研修 天徳寺様  
参加者 29名



天徳寺様 山門

貴重な体験  
湯沢市 菅 久美子  
毎年仏教講座を楽しむに、湯沢か

ら秋田に通い始めて、早いもので九年の歳月が経ちました。その間の資料をなつかしく見返しながら、あ、そうだったなあ、こんなお話も聞き、きいた、そうそうこんな仏教用語も覚えていたのだなあ、と、記憶が甦って参りました。

公開講座では、立派な方々の話術に引き込まれ、自分を見直す機会を得ることができ、なんとと言っても、年一回の野外研修では、県内各地か



前田 彰亮 ご住職

ら来られた友人達と、親睦を深めながら、個々に参詣するのはまた違う視点から、歴史を感じることで、さる、楽しく有意義な一日を過ごさせて頂きました。後日写真まで郵送して頂くという、至れり尽せりの、皆様の行き届いたお心遣いに感謝しかございません。コロナ禍で、少し寂しい思いをしましたが、この度、野外研修で、天徳寺の補修工事中の内部を、特別に見学できるとの事で、何年も前にテレビで、奈良の唐招提寺の大修理の映像を、興味深く見入った事を思い出し、楽しみにしておりました。

当日、内部を見学する前に、スライドを使った丁寧な説明があり、建物全体を覆う巨大な鉄骨、屋根、壁、天井、床などの解体、破損箇所、柱の沈下状況、かたむきや歪み、様々な調査や、耐震診断など、重要な文化財の、保存処理の大変さは、やはり想像を絶するものでした。内部に入ると、大勢で一気に仕上げるという工事ではないそうで、静寂な雰囲気漂っていました。耐震のための鉄骨が、何本か立てられたり、こけら葺きの部分は、鉄板葺きに、置き換えられたり、現代の最良の修繕技術と融合させ、慎重に十年の歳月をかけ、進められている現状を、拝見さ

せて頂きました。  
私が崇敬する、我、湯沢が生んだ、了翁禅師が、三七三年前に、参禅した当時は、どのような趣だったのかという思いと一緒に、二年後の完成した、天徳寺を楽しみに、是非また訪れたいと思います。  
今回、このような貴重な体験をさせて頂き本当に有り難うございました。

## 野外研修日程

- 10:30 天徳寺様拝観 約一時間
- 12:00 昼食(禅センター)
- 13:00 人權学習 約一時間30分
- 14:30 解散



概要説明の様子

参加して

湯沢市 佐藤悦子

毎年、楽しみにしていた野外研修が三年ぶりに開催され、今回はコロナ禍という事で、徒歩で禅センター近くの天徳寺様への拝観でした。当日は天気にも恵まれ、久しぶりに会う知人との会話もはずみ足取りも軽かったです。

天徳寺様は、よく啓蟄のニュースを観る位の知識しかなく、秋田藩主佐竹氏の菩提寺でもあり、国指定の重要文化財です。

平成二十七年着工、令和六年完成、



屋根 軒 壁

十年がかりの大改修のさなかでした。最初に工事の担当の方から、工程、作業内容などをまとめたスライドで詳しく説明がありました。長年の建物の重さによって沈下の差が生じ、建物の前後で三十センチも差があるということを知りました。



屋内 梁 壁

その後、現場へ向かい実際工事の様子を見ました。素人でも分かるほどに大変大掛かりな工事が行われていることがわかりました。特に印象に残ったのは、耐震に対する鉄骨が何本もむき出しになっていた所でした。建物を維持保存するため、現代の高い技術を駆使していること、いつの時代も建物を造る人は凄いなと思

いました。どうか無事に完成することを心待ちにし、またお参りしたいと思えます。



床下構造

お昼は、禅センターで用意してくれましたお弁当を、合掌し、五観之偈をお唱えしてから美味しくいただきました。黙食の様子はさながら修行のようでした。

午後からは、人権について、曹洞宗で作成した「ここから〜東日本大震災から10年〜」のDVD視聴。そして本宮寺ご住職の講話がありました。心に残ったのは講話で僧医の対本宗訓先生の言葉です。

「祈るだけでは無力だと多くの人が思っています。しかし祈りが無力

なわけではありません。祈ることを忘れた心が無力なのです。」祈りをもって行動することが大事なんだと、改めて思いました。  
最後にコロナ禍という厳しい状況の中、めったに観ることのできない改修工事を見学できたことに心より感謝申し上げます。  
誠にありがとうございます。



人権学習講師 佐藤善廣人権主事

今期の檀信徒梅花流講習会

お唱えが主の講習ですが、10〜12月、布教部の和尚さんにより法話講習がありました。



梅花流講習会概要報告  
 10時30分〜15時30分  
 4月 中止  
 5月 12名参加  
 講師 松庵寺 渡邊 英心 師範  
 全應寺 佐藤 宗明 師範  
 6月 11名参加  
 講師 太平寺 亀谷 隆道 師範  
 長年寺 松井 祐司 師範  
 7月 18名参加

オンライン配信と宗務所にて研修会を開催致しました。

10月13〜14日 現職研修会

9月 10名参加  
 講師 龍門寺 浅田 高明 師範  
 太寧寺 伊藤 道人 師範  
 正傳寺 村松 良周 師範  
 恵林寺 本間 秋彦 師範  
 10月 14名参加  
 講師 正法院 清水 道広 師範  
 円通寺 近藤 俊彦 師範  
 法話 東光寺 鈴木 慶道 師  
 11月 13名参加  
 講師 清徳寺 鈴木 泰賢 師範  
 天仙寺 福田 皓雄 師範  
 法話 東傳寺 鈴木 智之 師  
 12月 10名参加  
 講師 玉鳳院 柳川 一童 師範  
 天仙寺 福田 皓雄 師範  
 法話 永泉寺 猪股 尚典 師  
 ☆今期は、後に2回の講習です。  
 2月3日  
 講師 倫勝寺 山田 卓爾 師範  
 福寿寺 奥山 一英 師範  
 3月3日  
 講師 普門院 本間 雅憲 師範  
 松庵寺 渡邊 英心 師範



奥野光賢駒澤大学教授

○いまの日本仏教を考える  
研修内容



研修会参加者（宗務所にて）



秋田県宗務所 佐藤善廣人権主事

○人権学習  
人権ビギナーとして歩む



岩手県宗務所 桐野好覚教化主事

○曹洞宗における信心に関する諸問題  
〜多様な宗教情勢に  
まどわされないように〜

10月18～21日 本山研修会



ご本山 朝課（大祖堂）

### 本山研修会に参加して

9教区 善光寺族 吉方 範子

十月十八日から三泊四日の日程で「第五二回檀信徒本山研修会」に参加させて頂きました。コロナ禍の中でしたが三十人弱の参加者でした。家族旅行のような雰囲気の中、バスで目的の大本山總持寺様へと向かいました。二年続けての中止でしたので、待っていた方々は、今回の参加を大変楽しみにしていたことと思います。總持寺に向う途中、五浦温泉

で体を清め、翌日は茨城県立五浦美術館を見学、岡倉天心らの業績を記念して平成九年に設立されたそうです。次は成田山新勝寺様へ。真言宗智山派のお寺様で、同派の大本山の一つでもあります。ご本尊様は不動明王様でした。

そしていよいよ大本山へ到着。「嶽山總持寺」様は、開創約七百年余りになります。研修日程は、開講式、薬石、法話、人權学習、明朝説明、布団作務、入浴、開枕と一日目を終えました。翌朝は、三時三十分振鈴、晓天坐禅、朝課、写真撮影、小食、閉講式（修了証授与）にて、研修が無事完了となりました。



石附禪師様

二日目に大本山總持寺貫首・石附周行禪師様にもお目にかかることができ、ありがたいお言葉を頂きました。ご健康を祈念致します。

九月十四日に先代の江川禪師様のご本葬があり、十月十一日に晋山式

を終えたばかりとのことでした。ご本山の中では、令和六年の瑩山禪師様の七百回大遠忌にむけての準備も始められておりました。

バスは首都高に入り国立競技場を車窓から眺めて豊川稲荷東京別院へと到着。大都會の中心地、東京都港区元赤坂にある曹洞宗のお寺様で、愛知県の豊川稲荷妙嚴寺様の唯一の直轄別院とのことです。お祈禱を頂き、お土産も頂戴しました。次に、茨城県牛久市にある牛久阿弥陀大佛を見学しました。ブロンズ製大佛立像で、ブロンズ立像としては世界最大、浄土真宗東本願寺様が造られたそうです。公園墓地「牛久浄苑」との複合施設となりました。

バスは母畑温泉に到着、この温泉はどんな疲れも治してくれる万能湯とのこと、ガイドさんの説明に期待して入浴しました。疲れは癒したがお土産を求める時間がなく、翌日の朝食後、短時間で頂いたクーポンを元に物色。もう少しゆっくり買いたいと思いました。

最終日バスは福島県いわき市小名浜に所在する水族館へ。愛称は「アクアマリンふくしま」、東北最大級の水族館です。広い敷地内をたくさん歩きました。そして「二本松の菊人形」を見学、菊人形の数は百体を

超えており、展示会場には三万株の菊が花を咲かせていました。

宗務所の方々、そしてご同行頂きました皆様には、大変お世話になりました。好天に恵まれ、全員元気で四日間の日程を無事に終えられた事に心より感謝申し上げます。又、お会い出来る時を楽しみにしております。合掌

○次の本山研修会は、大本山永平寺様を予定しております。是非ご参加下さいますようお願い致します。

### 11月4日 禪を聞く会

#### 記念講演

○「仏の道を生きていく」

講師 福島県 長秀院住職

渡邊 祥文 老師



聴講者150名

(寺族研修会参加者を含む)



天龍寺 八島宗師 (謝辞)

- 講演終了後 設立集会(式典)  
被表彰者(○印の中は教区番号)
- 住職永年勤続60年
  - ⑬雲昌寺住職 古仲 宗賢 宗師
  - 住職永年勤続50年
  - ⑦高泉寺住職 泉田 泰雄 宗師
  - 住職永年勤続40年
  - ①天龍寺住職 八島 國雄 宗師



長慶寺 深川宗師 (右)

- ⑪仁叟寺住職 澤口 高明 宗師
- 住職永年勤続30年
- ①満福寺住職 小野 司峰 宗師
- ①東光寺住職 鈴木 方一 宗師
- ①永元寺住職 貝野 元心 宗師
- ⑦満勝寺住職 佐々木正悦 宗師
- ⑧天寧寺住職 大坂 仙雄 宗師
- ⑨長慶寺住職 深川 典雄 宗師



安宗寺 丸岡宗師

- ⑨安宗寺住職 丸岡 公樹 宗師

表彰された皆様、これまでの各ご寺院護持のご努力に敬意を表しま

- ①満福寺寺族 小野 和子様
- ③瑞光寺寺族 高橋 智子様
- ③正重寺寺族 村山 潤子様
- ⑫潜龍寺寺族 伊藤智香子様
- ⑭禅林寺寺族 山中 京様
- ⑭太白院寺族 今野まり子様
- ⑯東泉寺寺族 佐藤 有子様
- ⑯安養寺寺族 橋本 郁子様
- ⑰満友寺寺族 鎌田 詳子様



雲岩寺 二坂様

- 寺族表彰
- ①萬雄寺寺族 加賀谷純子様
  - ④永泉院寺族 佐々木和枝様
  - ④香泉寺寺族 東 和子様
  - ④龍安寺寺族 熊谷 宣子様
  - ⑤雲岩寺寺族 二坂 講子様
  - ⑦正福寺寺族 伊藤智津子様
  - ⑧満福寺寺族 堀井 仙子様
  - ⑪長年寺寺族 松井ふみ子様
  - ⑮地藏院寺族 村上 與子様
  - ⑰森昌寺寺族 黒澤 洋子様

立会人  
天龍寺住職 八島 國雄 宗師  
源守院住職 越姓 玄悦 宗師



選挙会(宗務所にて)  
無投票にて袴田俊英宗師が当選され、齋藤昭道選挙長より当選証書が交付されました。

11月22日 宗務所長選挙

○県南・中央地区  
秋田市・宗務所 受検者10名  
○県北地区(9月2日)  
大館・北秋くらぶ 受検者19名

11月22日 梅花検定会

す。これからも法体堅固にてご活躍下さいませ様、ご祈念申します。

11月25日 第3回 仏経講座



福城寺 佐々木 耕志 師

○仏教マメ知識①  
午後から 参加者24名



写経の様子 (約1時間半)

○写経 (午前10時30分より)  
参加者14名



慶祥寺 矢萩 宗順 師

坐禅指導



坐禅 (約30分)

○坐禅 (自席にて)

第1回参加者 7月30日 20名  
第2回参加者 9月8日 14名



宗福寺 黒澤 良允 師

○仏教語解説



長泉寺 戸澤 広悦 師

○仏教マメ知識②



布教部長 恩徳寺 岩館 裕章 師



○納経供養・閉講式



実相寺 大佐賀 正信 師

○講義

12月9日 臨時所会

○曹洞宗秋田県宗務所役職員  
人事の同意を求むる件  
○同人権擁護推進委員会委員  
選任の同意を求むる件



臨時所会 (宗務所2階研修室にて)

齋藤所長より、新所長に袴田前副所長が決した報告があり、今後の人事に関して推薦された7名を、審議の上、ご同意願いたいとの挨拶がありました。



袴田俊英新所長よりの役職員紹介

議事が進められ、提案された役職員人事と人権擁護推進委員会委員の選任を、ご出席の所会議員(各教区長)皆様より、満場一致で同意ご承認いただきました。新役職員一同、真摯に宗務所事業に従事することを  
お約束致します。



退任役職員

齋藤昭道所長と伊藤涼平書記が、令和4年12月10日付で退任されることになりました。

齋藤所長は副所長の任期を合わせ、8年間宗務所行政に従事され、コロナ禍の激しく変動する世情の中、所員を導いて下さいました。伊藤書記は、禅センター実務担当者として、4年間その誠実な人柄と、丁寧な対応でご尽力下さいました。ここに、敬意と感謝を表します。ありがとうございます。

### 編集後記

#### 令和の四年間を振り返って

一年目、齋藤所長の事業テーマは【社会が宗門に求める「僧侶としてあるべき姿」を考える】でした。各研修ではこのテーマの、大事な示唆を得ることができたと思います。布教協議会・三部義道老師(山形)現職研修会・井上義臣老師(愛知)禅を聞く会・丸子孝法老師(奈良)また梅花流の全県奉詠大会を、初めて男鹿市で行いました。二年目はコロナ禍となり、多くの事業が実施できませんでした。三年目は感染の拡大と縮小が繰り返される中、その度に様々な変更を重ねて対処することになりました。その中で、インターネットを活用して研修に参加できる仕組みができたことは、収穫だったと思います。また三十周年記念事業を実施できたことは、大変ありがたいことでした。四年目は実施できる機会が多くなりました。大仙市で梅花の全県大会が開催できた事等、ようやく宗務所事業が、コロナ禍を乗り越えるきっかけを得たように思っています。(佐藤徳祐記)

追記 所報がお手元に届くのが遅くなりました。お詫び申します。

トピックス

令和4年度 曹洞宗保護司連合会

秋田県支部関係表彰者一覧

東北地方更生保護委員会委員長表彰

秋田東保護区 松山 郁子

①林清寺寺族

能代保護区 渡邊 紫山

⑨松庵寺住職

東北地方保護司連盟会長表彰

能代保護区 鈴木 泰賢

⑨清徳寺住職

北秋田保護区 奥山 真行

⑩源昌寺住職

更生保護法人全国保護司連盟理事長

表彰

北秋田保護区 本間 宣道

⑱天昌寺住職

本荘保護区 佐藤 道幸

③東林寺住職

秋田県知事感謝状

本荘保護区 猪股 知幸

③大蔵寺住職

本荘保護区 松山 祖隆

④龍王寺住職

秋田保護観察所長表彰

北秋田保護区 奥山 一英

⑩福寿寺住職

北秋田保護区 栗谷 大三

⑩福巖寺住職

秋田県保護司会連合会長表彰

鹿角保護区 佐々木 雅也

⑪曹源院住職

角館保護区 菅原 宗弘

⑧田澤寺住職

敬称略 (〇印の中は教区番号)

徒弟研修会中止のお知らせ

3月30日開催予定の徒弟研修会は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、中止とさせていただきます。残念ではありますが、ご理解ください。

令和五年度 山門法要(予定)

日程	教区	寺院名	法要
3月31日	4教区	石龍寺	本葬
5月20～21日	18教区	玉林寺	本葬
6月17～18日	5教区	最禪寺	晋山・結制
9月9～10日	17教区	永泉寺	晋山・結制・退董
10月6～7日	1教区	歎喜寺	晋山・結制
10月15～16日	11教区	曹源院	結制
10月28～29日	1教区	鱗勝院	晋山・結制

秋田県宗務所婦人会会則

一部変更に関して

関連する箇所を記載します。

(目的) 第2条 本会は、会員各自が曹洞宗の教えに根ざした信仰生活を確立するとともに、会員相互の連帯を深め、豊かな愛情によって、社会教化に尽力し、もって宗門の興隆と平和な世界の実現に寄与することを目的とする。

(組織) 第4条 本会は、曹洞宗秋田県宗務所管内の寺院婦人会の会員及び第2条の目的に賛同する檀信徒をもって組織する。

——の部分令和3年より補足されております。よって、婦人会が菩提寺様に組織されていない場合でも、当会の目的に賛同する檀信徒であれば、会の各行事にご参加することが出来るようになりました。



本山研修 大本山總持寺様 令和4年10月20日



野外研修 天徳寺様 令和4年9月30日